

平成24年度総合健診のお知らせ

今年度の総合健診は下記のとおりに行います。今年度も県民健康管理調査の検査項目を含めて無料で実施します。生涯にわたる健康管理のための大切な健診になりますので、ぜひ受診してください。対象の方へは個別に検診案内を送付します。

なお、施設検診は医療機関で対応できる人数に限りがありますので、施設でしか受けられない検診（子宮がん・乳がん・骨粗しょう症検診）以外は、できるだけ集団健診を受診してください。県外避難者の方へは、村が委託契約している財団法人日本予防医学協会から健診の案内が届きます。



【健康診断・県民健康管理調査】

	実施月日・健診会場	受付時間
集団健診	5月24日（木）相馬仮設集会所	午前7:30～9:30 午後1:00～2:00
	5月25日（金）福島県青少年会館（大研修室）	午前8:30～10:30 午後1:00～2:00
	5月26日（土）飯館村役場飯野出張所	午前7:30～9:30 午後1:00～2:00
	5月27日（日）	
	5月28日（月）伊達東公民館	午前8:30～10:30 午後1:00～2:00
	5月29日（火）	
	5月30日（水）松川第一仮設集会所	午前7:30～9:30 午後1:00～2:00
	5月31日（木）	
6月1日（金）鹿島区万葉ふれあいセンター	午前8:30～10:30 午後1:00～2:00	
6月2日（土）福島県青少年会館（大研修室）		
	6月3日（日）	午後1:00～2:00
施設健診	平成24年7月～8月 福島市および相馬市、南相馬市の指定医療機関（医療機関は現在、医師会と調整中です。集団健診を受診しなかった方へ医療機関が決まり次第お知らせします。）	
対象者	16歳以上の方（*15歳以下の方の健診は福島県が実施主体となります。指定の医療機関が福島県から案内されます。）	
検査項目	基本健診（身体計測、血圧、尿検査、血液検査、肝機能検査、腎機能検査、心電図検査、眼底検査（40歳以上）、結核検診、肝炎検査（40歳のみ） がん検診等（肺がん・結核検診、胃がん検診・大腸がん検診・前立腺がん検診） *子宮がん・乳がん・骨粗しょう症検診は集団健診では実施しませんので、施設健診を受診してください。	



▲直接対話集会的ようす

直接対話集会で話された内容

「福島における災害後の心理的影響  
：コミュニケーションの重要性」

ストーニーブルック州立大学教授  
エヴェリン・プロメット氏

- ・福島において心理的に障害(トラウマ)を受けやすいのは、子どもへの健康影響を心配する母親や、家を失い、家族とばらばらに暮らしている高齢者、放射線被ばくによる不安の強い人などで、憂うつ、不安などのうつ病は世界的にも大きな病気である。
- ・「食欲がない」、「眠れない」といった声には、愚痴としてではなく、向き合わなければならない。
- ・正しい情報の公開と共有が大切。

直接対話で出された意見

- Q. 人体の修復作用は個人差があるのか。  
A. 病気や遺伝病の方など感受性の高い人はいる。
- Q. 低線量被ばくによって、がん以外の影響があるのではないか。  
A. 年間100ミリシーベルト以上の被ばくでは、がん以外に老人性症状が早く出るなどのデータがあるが、低線量ではデータがない。
- Q. 健康を守るためにどのような検査が必要か。  
A. 内部被ばく検査や食品のモニタリング。健康調査やメンタルヘルス調査が必要。  
(紙面の都合上、一部のみ紹介)

飯野出張所で、チェルノブイリ原発事故の子どもの健康調査活動の経験に基づいた放射線と健康に関するアメリカ、カナダなど世界の専門家5人による直接対話集会が開かれ、放射線に対する不安や健康への影響について参加者と意見を交わしました。

今回は、議員、役場職員、農業委員、行政区长、教育委員や学校関係者、JAなどを対象とした、日本財団及び笹

リスコミ

※リスコミ(リスクコミュニケーション)健康への影響について情報を共有し、意見交換していくこと。

4/21

世界の放射線専門家との直接対話集会

川記念保健協力財団の主催によるリスコミュニケーションセッションです。

「放射線被ばくの医学的影響」

国連放射線影響調査科学委員会  
米国代表 フレッド・メトラー氏

- ・放射線被ばくによるDNA損傷は人体の修復機能で修復できる。
- ・妊娠中の被ばくによる胎児奇形の影響について、年間100ミリシーベルト以上で発生可能性がある。
- ・3世代にわたる原爆被ばく者研究結果では、遺伝的影響は見られていない。
- ・妊娠前の被ばくによって、子どもの発がん、あるいは奇形のリスクを増加させることは示されていない。



▲参加者の質問に答える専門家たち